

授業での利用-3

先日、学生に「ステレオ装置」の意味を訊ねたところ、スピーカーが二つ左右対称に設定されてあるというところまでたどり着いた学生は半数程度。さらにそれが音の立体的定位と関係することを知っていた学生に至っては数パーセントという有様！。耳が左右に二つあることの意味とオーディオ製品にスピーカーが複数あることの関係はどこで誰が教えるのでしょうか。私の大学の軽音楽部の連中がスピーカーボックスを修理して38cmのウーハーを2本並列で付けたのかえって低音が出なくなったと首を傾げていました。賢明な読者諸氏はおわかりでしょうがウーハーは位相を正確に合わせないとお互いに殺し合うのです。一方のスピーカーの+を逆につなぎ直したらブンブン低音が鳴り出したことは言うまでもありませんが、「立体音楽堂」という番組を聴くために2台のラジオを並べて聴いた世代がろうじてこの文化と技術を次ぎの世代に伝えられると思うのですが、学校現場ではそろそろ定年の年代です。

そのような「アナログ草創期」からの生き残りがすんなりとは受け入れがたいのが現在の「デジタル草創期」世代の文化です。先日も最新の携帯式MP3プレーヤーを購入した知人が、64Mバイトのメモリにベートーベンの第9が全曲入らなかったとぼやいていました。

アナログ時代の文化は、例えばCDのサイズを決めるときにベートーベンの第9が全楽章入るサイズにしたことを知っています。実際に私もやってみましたインターネットからMP3の素材をダウンロードするにはものすごい時間がかかってしまいます。ベートーベンの第9全楽章をISDNでないアナログポートからダウンロードするくらいならCDで買う方が遙かに安上がりです。

デジタル世代は和製ポップスを「邦楽」と言って我々を驚かせます。そうなんです。いつの間にかCD売場の「邦楽」のコーナーには「常磐津」や「雅楽」ではなく、アイドルのタイトルがずらりと並んでいるのです。シングルと呼ばれるサイズがせいぜい数分のこの手の音楽をMP3では対象としているのです。IT時代の音楽は大容量超高速のネット環境が整備されるまではこのようなスナック的な音楽ばかりが流通することになるでしょう。

ところがMIDIデータとして音楽をやりとりすると実にコンパクトに多くの情報が利用できます。最近私はモバイル機をDoCoMoもGFORTEに変えました。このモバイ

ルには何とMIDIを再生できる能力があるのです。数あるモバイルの中でMIDIが再生できるのは私の知る限り現在これだけです。MP3ですと64Mにぎっしりいれても1時間程度ですが、このGFORTEのポケットンカラオケは画面を消したまま延々5時間も音楽を演奏し続けるのです。そんなに長い曲があるのかとお思いでしょう。実は健康のために時々10キロ程度の散歩をするのですがその時ウオークマンでシンフォニーというのは結構ミスマッチでかえって疲れるので、いろいろ選曲していた結果巡り会ったのがバッハなのです。1曲づつが短くて屈折した旋律や無理な和声がなく素直に邪魔にならずに聞ける最高のBGMがバッハだったとは・・・

バッハの全曲に近いものがインターネットからダウンロードできましたが、そのサイズはなんとたったの25M！。その理由は、バッハの音楽の殆どは音の高さ音の長さ音の強さの基本要素でできており、コンティニアスと呼ばれる連続的变化をあまり含まず実にシンプルに出来上がっているからであることに気がつきました。

ハイパーMIDIレッスンで扱うデータもこのようなものを基本としていますからやりとりも簡単なのです。ハイパーMIDIレッスンではテキストデータとしてMIDIを扱っている部分がたくさんありますが、ちょっとした工夫でこのMIDIデータが「読める」のです。それぞれのカードに記録ボタンのような形で配置されているボタンは実は文字書き込みのフィールドと呼ばれるオブジェクトにしています。30000バイト以内という制限はありますがそこには文字として子供たちの演奏データが書き込まれています。編集ツールで「不可視」に設定してあるチェックをはずせば読みことも印刷する事もできます。

この場合フットコントロールのような連続性のあるデータが入ると大変やっかいなことになりますが、逆に考えればそのようなデータが入っていると言うことはその生徒が高度な演奏をしていることを客観的に示しているとも言えます。

MIDIにはいろいろなFormatがありますが、Mac郎などのMIDIアプリケーションでは殆どあらゆる形式のMIDIファイルを処理できます。WindowsのXGWarks等でセーブしたファイルをマックで開くとWAVファイルになっていて開けない時等はResEdit等でファイルタイプがWAVになっているのをMidiに直せばOKです。